

地域を愛し、自立と共生ができ、未来を創る子ども

直東学園ニュース

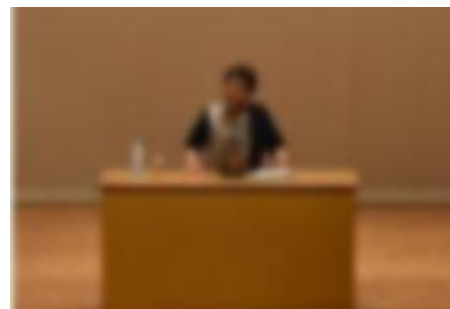
直江津東中学校区すこやかネットワークだより

令和6年度 第8号
令和7年1月25日発行
＜発行・編集＞
直東学園 事務局
〒942-0041
新潟県上越市安江 282-1
(上越市立直江津東中学校内)
TEL : 025-543-2729
FAX : 025-543-4150
E-mail : higashi-cs@jorne.or.jp

中学校区で連携した同和教育の取組

直江津東中学校区は、令和5、6年度に上越市教育委員会から「同和教育研究指定地区制度（第3次）推進事業」の委嘱を受けています。「部落差別の解消を目指し、教職員が同和問題に対する理解と認識を深めたり、指導力を高めたりして、児童生徒一人一人に鋭い人権感覚をはぐくむ教育を推進すること」「差別や偏見を見逃さない集団づくりを基盤に、差別解消に向けた積極的な同和教育の実践を積み重ねていくこと」を趣旨としています。まとめの年となる今年度は、各校が主体的に授業交流に取り組み指導力を高めてきました。また、合同研修への参加を通して、同和問題に対する理解と認識を深めています。

8月2日（金）、中学校区の全教職員を対象にした合同研修会をユートピアくびき希望館で行いました。埼玉県から古河邦子さんをお招きし、「部落差別の現実と取組から学び、教育実践へ」という演題でご講演いただきました。古河さんは五反田会館の協力員として地域の方と、日々向き合っているらしいです。古河さんは終始、優しく語りかけながらも、部落差別は必ず解消していくことができると述べられ、そのためには学び続けていくことが大切であることを力強く訴えられていました。



【教職員を対象にした古河邦子さんの講演】

10月31日（木）に4小学校の6年生を対象に、11月1日（金）に中学校の全学年を対象に、徳島県からお越しいただいた大湾 昇さんの講演会を昨年引き続き行いました。「差別とは何か」について、心理テストやこれまでに大湾さんが出会ってきた人たちとの話を交えながらお話しいただき、「差別とは努力しても変えられないところや変える必要がないところに対して、悪意をもって攻撃すること、もしくは悪意がなくても傷つける行為」であることを学びました。いじめなどで悩んだり苦しんだりしている人を励ましたい、そんな思いが熱く伝わってくるご講演でした。



【児童生徒を対象にした大湾昇さんの講演】

教職員による授業交流会を中学校区の全小中学校で実施しました。普段は校内の教職員で授業研究を行っていますが、他校の教職員と指導案検討・授業参観・協議会を行うことにより、授業者・参加者ともに新たな視点からの学びがあり、有意義な研修の機会になりました。また、小学校と中学校の授業交流は、9年間を見通した実践にも結び付いています。研究指定を受けている2年の間に、多くの教職員が他校で学ぶことができるように、参加者の調整を図りながら実施してきました。



【全小中学校で実施した授業交流会】

各小中学校におきましても、家庭・地域の皆様から講演会や学習参観にご参加いただくなど、同和教育の推進にご協力いただいています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

北諏訪小学校の取組

同和教育研究指定2年次。当校は人権教育、同和教育にさらに力を入れた取組を進めてきました。子どもとともに学ぶ職員でありたいと、1学期早々に2名の講師をお招きし、人権とは何か、そして同和教育を進めるうえで重要なこと等を再確認する場をもち、6月には現地学習にも赴きました。各方面での研修にも参加し、得たことを活かして指導案検討を進め、9月の学習参観日に、全学年が人権教育、同和教育の授業をしました。



“自分事”になる授業構想、授業の流れや提示する資料についての吟味を重ね、学年の実態に応じた授業を展開しました。また「人権を考える講話会」を開催し、保護者や地域の方からご参加いただいたことで、みんなで考える人権教育、同和教育となりました。

11月には、「絆集会」を実施しました。北諏訪小学校がもっと温かな学校になるためにどんなことを大切にするか各学級で話し合い、発表し合いました。

また縦割り班では、一緒に活動をする度に仲間に対して、いいところをカードに書いて渡す取組を継続しています。笑顔でカードを読み返している子どもたちの姿が見られました。今後も、子どもたちが相手のことを思いやりながら安心して学校生活を送ることができるよう、見守ってまいります。



保倉小学校の取組

今年の直東学園主催ほくら人権の日講演会は、NAMARAの高橋なんぐさんをお招きして、北諏訪小学校の5, 6年生と保倉小学校全校児童、CS委員、保護者がお話を聞きました。「見方を変えると味方ができる」として、自分の立ち位置を変えて行動してみることが大事なことだと教えていただきました。笑いを交えながらのお話に、子どもたちは引き込まれ、人権のことを考えるよい時間となりました。



また、この日は、全学年が部落問題学習、人権教育の授業を公開しました。身の回りにある「決め付け」「差別」など、それぞれの発達段階に応じた資料を用いて人権について考えました。子どもたちは真剣に考えて、自分の意見を話していました。

【参観してくださった方の感想】

- ・普段から意識していることではありましたが、改めて考えさせられる内容だったと思います。子どもたちの意見もなるほどと思われました。家でもまた話してみたいと思います。
- ・差別をしているのは子どもたちだけでなく、大人たちということを指摘する子がいて、鋭いところに気付くなあと感心しました。大人の姿を見て子どもが真似るという構図が見えてきます。



有田小学校の取組

「自分も相手も大切にすることの育成」を重点目標に定め、学校の教育活動全体において、差別や子ども同士の分断を生み出してはいないか、取組を見直してきました。一例をあげると、昨年からは9月に行っていた校内マラソン記録会を校内マラソンデーとし、タイムで競う競争型の持久走記録会から、走ることにそのものを楽しむファンラン型のコースをつくり、選択できるようにしましたことです。一昨年と比べて欠席・見学する児童がぐっと減り、自分の選択したコースで生き生きと走る姿が見られました。また、委員会活動では「もっと有田小学校が仲良くなってもらいたい」という願いから総務委員会が異学年グループの名称変更の提案をし、全校アンケートを実施しました。様々な候補の中から、「なかよし班」という名称に決定しました。児童一人一人が自己選択・自己決定していくことで、「やらされる」活動から「やりたい」活動へと変わっていきました。



自己選択・自己決定で笑顔でラン
(校内マラソンデー)

今年度は、人権学習・部落問題学習の公開授業を3回実施し、教職員だけでなくCSの皆さんからも協議会に参加していただきました。4年生の部落問題学習では、「交流を深めることで、うわさや決め付けた見方に惑わされない人としての生き方」について学ぶことができました。CSの皆さんからは、「決め付けの授業は、社会に出ている私たちこそが受けた方がよい」「うわさや偏見にとらわれない行動が必要だと思った。本当にダメなところがあったとしても、よいところを受け入れることができる人になってほしい」と意見が出されました。人権学習・部落問題学習で得た学びを、実際の生活と結びつけて考えていくことが課題ですが、「自他を尊重し合い、差別に気づき、差別をなくすために行動しようとする児童」を育成するために、今後も取り組んでいきます。

春日新田小学校の取組

今年度は、「授業」を中核としながら、一層の人権教育、同和教育の推進を図ってきました。

中学校区の教職員を対象として授業公開を1年生、3年生、5年生で実施し、授業における子どもの姿からよりよい人権教育、同和教育の授業構想や展開について深めてきました。1年生の授業公開では、今年度改訂した『生きるI』を活用しました。中学校区基底計画に位置付けている内容と児童の実態を勘案しながら、互いを大切にする行動力が身に付く授業について授業者と参観者が意見を交流しました。3年生と5年生の実践では、これまでも扱われてきた資料の意味や価値を見つめ直し、授業における子どもの姿から資料の意味や価値を再確認しました。授業後には、子どもの姿に基づいて意見を交流することで、教職員の人権感覚が養われると共に、人権教育、同和教育の指導力の向上につながりました。

また、人権教育強調旬間の取組の一つとして、下学年と上学年のペア学級をつくり、人権教育、同和教育の授業交流を実施しました。「差別をなくすために行動しようとする姿」「学びの深まりを実現した教師の手立て」「自分が授業者ならどのように構想・展開するか」の3つを参観と交流の視点とし、互いの授業を見合い、授業後に意見交流しました。

6学年の部落問題学習においては、4月に人権教育、同和教育部と6学年部が連携し、社会科との学びと関連付けた1年間の部落問題学習の取組について計画を立てました。部落問題学習を実践しながら、部落問題学習年間計画の精緻を図り、部落問題をなくしたいという思いを強め、偏見や差別をなくすための人や社会の在り方について考える子どもを育もうと考えました。

今後も授業を中核としながら、一層の人権教育、同和教育の推進を図っていきます。

直江津東中学校の取組

東中では毎年11月から12月を「人権強調月間」と位置づけ、生徒と職員が一緒になり、人権について考え、学んでいます。『人権強調月間』の取組を紹介します。

11月～ 行事の振り返り、専門委員会の取組

体育祭、音楽祭では、振り返り活動の中で、クラスメイトに感謝の気持ちを伝えました。また、廊下に「いじめ見逃しゼロ」に向け、各委員会がポスターを掲示したり、生活委員会企画の全校レクを行ったりしました。

11/1(金)人権教育、同和教育講演会

徳島県から大湾昇様を講師にお招きし、講演会を実施。「何で私なの？」という言葉には、自分さえ良ければいいという誤った考えが隠されていること、いじめという行為が相手の人生を破壊することを教わりました。

11月下旬～ 人権教育、同和教育の授業実践

全学級で人権教育、同和教育の授業を実践しました。11/20(水)には、校区内の小学校の先生方と一緒に、「ネットにあふれる人権侵害」を題材とした授業公開と協議会を行いました。部落に関する動画を視聴する人の考えを分析し、心の奥に潜む差別心について深く考えました。

11/22(金)いじめ見逃しゼロスクール集会

学区の小学6年生を迎え、集会を実施しました。講師の丸山先生(上越市教育委員会)と一緒に「どこからどこまでがいじめにあたるのか」「いじめを止めるために何ができるのか」について小学生と話し合い、活発な意見交換が行われました。



12/19(木)「生き方講演会」

ナマラエンターテイメント所属の高橋なんぐさんをお招きし、「生き方講演会」を実施しました。随所にお笑いを混ぜながら、世界一周をした経験を基に、「見方を変えると味方になる」など“人生をしなやかに生きるためのコツ”を教えてくださいました。

5年生マスコミ学習

12月5日(木)に、保倉小学校、北諏訪小学校、有田小学校、春日新田小学校の5年生が春日新田小学校の体育館に集まって、マスコミ学習を行いました。これは、直江津東中学校区(直東学園)のキャリア教育の一環として取り組んでいる学習です。

学習前に他校児童とあいさつや自己紹介をしたり、学習後に感想を交流したりする時間もあり、和やかな雰囲気の中で学習をしている感じが感じられました。

講師としてJCVのアナウンサーと新潟日報の記者をお招きし、仕事の内容や努力等について話していただきました。その後、子どもたちからの質問に答えていただきました。最後に、講師のお二人と春日新田小学校の戸田校長がステージに上がり、Q&A形式のてい談会が行われました。



子どもたちは、ワークシートに熱心にメモを取りながら話を聞いていました。学習後の感想を見ると、仕事をする上で大切にしていけるべきことや、自分の生き方の参考になったことなどが多く書かれていました。今後の過ごし方や生き方が未来の自分につながっているということを感じることができた、とても貴重な経験になりました。